



今年度のライフキャリア通信では「Q&A～今知りたい『進路』のこと～」と題して、お寄せいただいた事前アンケートの中から進路指導に関する疑問・質問に答えます。第3回のテーマは「くらすこと（生活）」です。それではどうぞ。



～今知りたい『進路』のこと～ テーマ「くらすこと（生活）」

Q: 将来的に何をもって「自立した」と位置づけられますか？「仕事に就く」＝「自立」というわけではないという事ですよ？その場合、どういった事が「自立」という意味をもちますか？(Kさん)

A: 「自立」とは「他の援助を受けずに自分の力で身を立てること」と考えがちですが、何にも頼らず、誰の支援も受けず生活することは誰しも困難です。しかし、保護されるだけの存在ではなく、自分で選択し、自分で決定し、そして自分の行為に自分で責任を取るという行為の主体になることが自立とも考えられています。そのため福祉分野においては、「自己決定に基づいて主体的な生活を営むこと」「障害を持っていてもその能力を活用して社会活動に参加すること」の意味としても用いられています。

具体的には「日中は生活介護事業所に通所し、生活に伴う身体介助や家事等々はヘルパーを利用し、経済的には障害者年金を使って生活」している方も「自立」と言えます。もっと言えば、そういった生活を選択・決定することや、そういった生活の様々な場面で自己選択、自己決定をしている姿が「自立」と言えると思います。

その人なりの自己選択・自己決定の在り方やその姿をイメージしてみることから始めてみてはいかがでしょうか。

Q: お金について、ATMの使い方、ゆうびん局の窓口(例えばハガキを買う)の利用の仕方について学ぶ機会がありますか？(あきこさん)

A: 学校でも生活科や総合、国算・国数、自立などでお金について個々の実態に応じながら学ぶ機会があります。加えて日常的にATMや郵便局等に出かけて「何回もやってみること」が大切です。実際にATMや郵便局に行ってみる(使ってみる)ことが一番です。その点では家庭での取り組みも重要です。なかなか連れていけない、物理的に本人の利用が難しいといった場合に、各金融機関のアプリを使った利用方法もあります。ハガキも切手も郵便局のオンラインストアで購入できます。

また、「ATMや郵便局の使い方」を知っているだけではなく、金銭感覚や金銭管理についても自分の得手不得手を知り、自分に合ったお金との付き合い方も身に付けていかななくてはなりません。

そういった意味合いも含めてその他の学ぶ機会というと、例えばハローワークなどで金銭管理に関する講座を企画実施したり、障害者就業・生活支援センター主催で学習会があったり、金融機関が行っているセミナーがあったりしますので、情報を得て参加していただくとよいです。(それぞれの窓口やホームページからも情報を得られます。)最近ではYoutubeなどでも学習できます。また、自立訓練や就労移行などの福祉事業所で金銭管理について学べる場合もあります。

ただ、「学習会に参加したから」、「事業所で学習したから」といってATMの使い方や郵便局の窓口の利用の仕方、また金銭感覚や金銭管理が身に付くというものでもありません。やはり日常的にお金を使う機会や管理する機会を持つことが大切です。